

「海辺の自然再生・高校生サミット」は、「全国アマモサミット」のプログラムの一部として実施します。

海とつながる3日間

全国アマモサミット2023 in 福岡

海の自然再生・保全を目指した全国会議

プログラム

10月20日 金

ビジネスDAY!

多様な主体の講演・事例を通して海洋保全に触れる

- 13:00 開会宣言
- 13:20 海づくりトークセッション第1部
「産官学民 多様な主体による海づくり!」
- 14:50 海づくりトークセッション第2部
「民間パワーが切り開く豊かな海づくり!」
- 15:50 講演・パネルディスカッション
- 17:00 終了

10月21日 土

学生DAY!

高校生をはじめ、世代を超えて海の自然保全を考える



- 9:00 オープニングセレモニー
- 9:15 博多湾ウルトラクイズ
- 10:00 地元小中学生からの活動紹介

海辺の自然再生・高校生サミット [午前の部]

趣旨説明

- 高校生発表① (2校) + 質疑応答・コメント
- 高校生発表② (1校) + 質疑応答・コメント

休憩

海辺の自然再生・高校生サミット [午後の部]

- 高校生発表③ (2校) + 質疑応答・コメント
- 高校生発表④ (2校) + 質疑応答・コメント
- 高校生発表⑤ (2校) + 質疑応答・コメント
- 高校生発表⑥ (2校) + 質疑応答・コメント
- 高校生発表⑦ (2校) + 質疑応答・コメント
- 高校生発表⑧ (1校) + 質疑応答・コメント

17:00 終了

10月22日 日

宣言DAY!

3日間を通して「これからの海への取り組み」を宣言する

- 9:30 オープニングセレモニー
- 10:00 各地の取り組み事例紹介
- 11:30 ディスカッション—これからの海づくり—
- 13:00 サミット宣言
- 14:00 終了

活動アドバイザー

木村 尚 きむら・たかし

NPO 法人海辺つくり研究会 理事・事務局長
1956年生まれ。東海大学海洋学部卒業。NPO 法人海辺つくり研究会理事・事務局長の他、東京湾を子どもたちが泳げる豊かで美しい海にしたいと考え、東京湾の環境やまちづくりに関する多数の市民活動にも協力している。主な著書は『都会の里海・東京湾』、『森里川海をつなぐ自然再生』(共著)等。現在、日本テレビ系列「ザ! 鉄腕! DASH!! —DASH 海岸—」にレギュラー出演中。

古川 恵太 ふるかわ・けいた

NPO 法人海辺つくり研究会 理事長
1963年生まれ。早稲田大学大学院建設工学科修了後、運輸省港湾技術研究所(1988-2013年)、豪州海洋科学研究所(1994-96年)、海洋政策研究財団(現・笹川平和財団海洋政策研究所:2013-2018年)を経て、2019年よりNPO 法人海辺つくり研究会理事長。徳島大学客員教授。専門は沿岸生態系の保全・再生・創出、沿岸域総合管理、市民調査・体験活動等。

岩井 克巳 いわい・かつみ

NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター専務理事
1965年生まれ。東海大学海洋学部卒業、(株)MAcS代表取締役。阪南市を中心とした大阪府南部の泉州地域で、アマモ場再生を核とした海洋教育、カキ小屋を核とした浜の活力再生を指導・実践。NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター専務理事の他、NPO 法人環境教育技術振興会理事、大阪湾見守りネット理事、NPO 法人海辺つくり研究会監事を務める。

モデレーター: 榎 太一

同志社大学 助教

同志社大学助教の榎さんが、「海辺の自然再生・高校生サミット」のモデレーターを務めます!

高校生サミット発表団体

【北海道・東北エリア】北海道霧多布高等学校/北海道小樽水産高等学校/宮城県水産高等学校/山形県立加茂水産高等学校 【関東・中部エリア】千葉県立安房高等学校/神奈川県立海洋科学高等学校/静岡県立焼津水産高等学校 【近畿・中国エリア】関西大学北陽高等学校/岡山学芸館高等学校 【九州エリア】福岡工業大学附属城東高等学校/福岡県立山門高等学校/熊本県立芦北高等学校/エコユースやつしろ/鹿児島県立鹿児島水産高等学校

活動アドバイザー

木村 尚

NPO 法人海辺つくり研究会 理事・事務局長

古川 恵太

NPO 法人海辺つくり研究会 理事長

岩井 克巳

NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター 専務理事

2023 海辺の自然再生 高校生サミット



10月21日 土

11:00—17:00

博多港国際ターミナル

福岡市博多区沖浜町 14-1

参加費: 無料

オンライン配信あり



【お問合わせ】 海辺の自然再生・高校生サミット事務局 〒156-0043 東京都世田谷区松原1-11-26 コスモリヴェール松原301 (NPO 法人共存の森ネットワーク内) TEL:03-6432-6580 FAX:03-6432-6590 e-mail:mori@kyouzon.org

この活動は、一般財団法人セブン-イレブン記念財団 東京海上日動火災保険株式会社 マルハニチロ株式会社 東京ガスグループ「森里海つなぐプロジェクト」の協賛を受けて実施します



主催: NPO 法人海辺つくり研究会 / NPO 法人共存の森ネットワーク

協賛: 一般財団法人セブン-イレブン記念財団 東京海上日動火災保険株式会社 マルハニチロ株式会社 東京ガスグループ「森里海つなぐプロジェクト」

お申し込み 全国アマモサミットHPよりお申し込みください。 <https://www.amamo-fukuoka.com/>

詳細 → <https://amamo-summit.net>

高校生サミット発表校の紹介



北海道・東北エリア

北海道 霧多布高等学校



私たち北海道霧多布高等学校は、北海道の東、釧路市よりもさらに東に位置しており、昆布をはじめとした漁業が盛んな浜中町にある高校です。日々の営みの中でアマモが身近な街であり、本校では、2015年より外部講師の方をお招きし、アマモについての知識を深めアマモ場のモニタリング活動を行ってきました。私たちは、2015年から受け継いできたこの活動を後輩たちへと受け継いでいきたいです。

北海道 小樽水産高等学校



私たちは、小樽水産高校古平栽培漁業実習場のある古平町でアマモの調査活動と再生活動を行っています。アマモ場を再生することで、古平町の水産資源量が回復できると考えています。活動はスクーバダイビングで行っています。そのためCカードや潜水士の資格取得もがんばっています。また、アマモ場を守るための海岸清掃活動も続けて行っています。

宮城県 水産高等学校



私たちは、3種類の海藻を畑の肥料とし、ミニトマトとサツマイモを育てています。また、アマモ場のアマモを地下茎から採取し、増殖実験を試みています。アマモ場から数株のアマモを実習場内の沈殿槽に移植し、アマモの変化を定期的に観察して、アマモ増殖の手がかりをつかみたいと考えています。

山形県立 加茂水産高等学校



私たちは海藻を活着させた基質を海底に這わせたチェーンに固定し、藻場を形成させる手法「Kamoモデル」を開発しました。今年度は、地元企業の商品である特殊コンクリート「フライアッシュ・リサイクル・コンクリート」を基質として用い、アカモクを活着させました。この結果は、令和6年5月に出る予定です。

関東・中部エリア

千葉県立 安房高等学校



千葉県館山市の沖ノ島のアマモ場は、2019年の台風で消失してしまいました。そこで、私たちは「アマモ場復活への挑戦」を始めました。具体的には、アマモ栽培に適した土を探し出すために栽培実験を行ったり、地引網や環境DNAを用いた継続的な調査を行っています。今後は、房総半島にも視野を広げてアマモ場復活を目指していきたいです。

神奈川県立 海洋科学高等学校



私たち「水産資源研究会」では、種から育て増やしてきたアマモを本校地先の小田湾に植えています。ただ、うまく根付かず、自然相手の難しさを痛感しています。しかし諦めず、今年もたくさんの方と協働し、新たな植栽場探しと食害魚種であるアイゴの侵入を防ぐネットを作製・設置する方法を検討したので報告します。

静岡県立 焼津水産高等学校



私たちは、漁業者に嫌われていた海藻「アカモク」に着目し、地域産業の活性化に貢献できるよう、公官庁・漁業者・商店との協働による幅広い活動を実施してきました。また、廃棄されている「漁網」を使用した学校オリジナル商品を開発し、大阪万博での展示や全国・海外での販売を目指す活動など、地域に求められる水産高校の役割を果たすべく、SDGs普及活動も積極的に行っています。

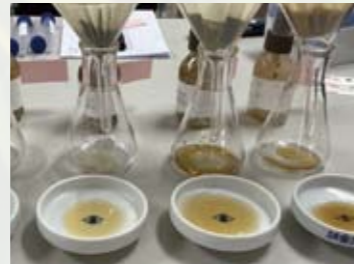
近畿・中国エリア

関西大学 北陽高等学校



私たちが「大阪湾アマモ場再生活動」と出会って7年が過ぎました。「海」を通じて繋がったモノ。それは人と人。海を守りたいと願う仲間です。本年度は、この7年間の活動内容をご紹介します。アマモ場再生活動から波及した『北陽の森マングローブ植樹 in 石垣島』についてお話をさせていただきます。まだまだ、私たちにデキルことはあります。今なら間に合う、今なら…。一緒に豊かな海を未来につなぎましょう。だって、海は、みんなのものだから。

岡山 学芸館高等学校



医進サイエンスコースでは、里海の聖地と呼ばれる岡山県備前市日生町で、2017年から海洋学習に取り組んでいます。1年次にアマモ場再生活動や聞き書きに取り組み、2年次にはカキの養殖体験や課題研究を行っています。今年は、アマモの種子を用いた醤油作りに挑戦しています。流れ藻の有効活用と、アマモ認知度の拡大を目指します。

九州エリア

福岡工業大学附属 城東高等学校



私たちは、博多湾内の生き物調査など多くの活動を行なっています。その中でも今回は、継続活動のアマモ場造成と新規活動の海藻調査の報告を行います。竹割り箸を用いた博多湾方式でのアマモの移植を行ったところ、定着が確認できました。また、アマモを通して多くの人と交流もできました。これからも、博多湾の魅力を伝えていくために活動を続けていきます。

福岡県立 山門高等学校



福岡県立伝習館高校のウナギ研究を引き継いで、飯江川をニホンウナギのサンクチュアリにするために必要な広葉樹の森づくりを行っています。飯江川上流は竹林が拡大し、その影響もあって飯江川には魚道が整備されていない可動堰が至る所に作られています。可動堰が必要なくなるために上流の森の吸水力が大きくなる必要があります。地域の子供たちのためにも頑張ります。

熊本県立 芦北高等学校



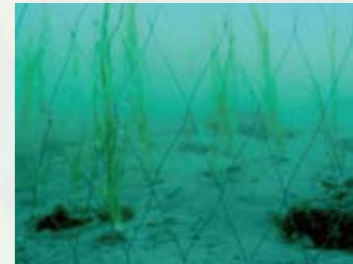
21年前、地元の芦北漁協より依頼を受け、アマモ場造成活動を始めました。活動当初0.25haのアマモ場は、長年の活動成果により、7.5haまで拡大に成功しました。しかし、令和2年7月の熊本豪雨災害によって約5haのアマモ場が消失。現在私たちは、消失したアマモ場の早期再生を目標に独自で考案した造成方法に取り組んでいます。

エコユース やつしろ



「エコユースやつしろ」は、母体を「次世代のためにがんばる会」として、「故郷を知り、守る。繋ごう、次の世代へ」をモットーに、熊本県八代市内の高校生を対象に2021年7月に発足しました。八代市内の700人の高校生が参加する「八代海河川・浜辺の大そうじ大会」への参加や、不法投棄の撲滅に向けた啓発活動など、八代海再生に向けた取り組みを行っています。

鹿児島県立 鹿児島水産高等学校



私たちは、南さつま市役所や地元の漁協からお声掛けいただき、昨年度より藻場造成に取り組み始めました。狭い施設でも効率よく種子が採れる方法や発芽率の良い条件を研究し、発芽したアマモを地元の海に植えています。地域と連携し、情報を発信することで藻場再生の取組が鹿児島県全域に広がるよう、日々活動しています。